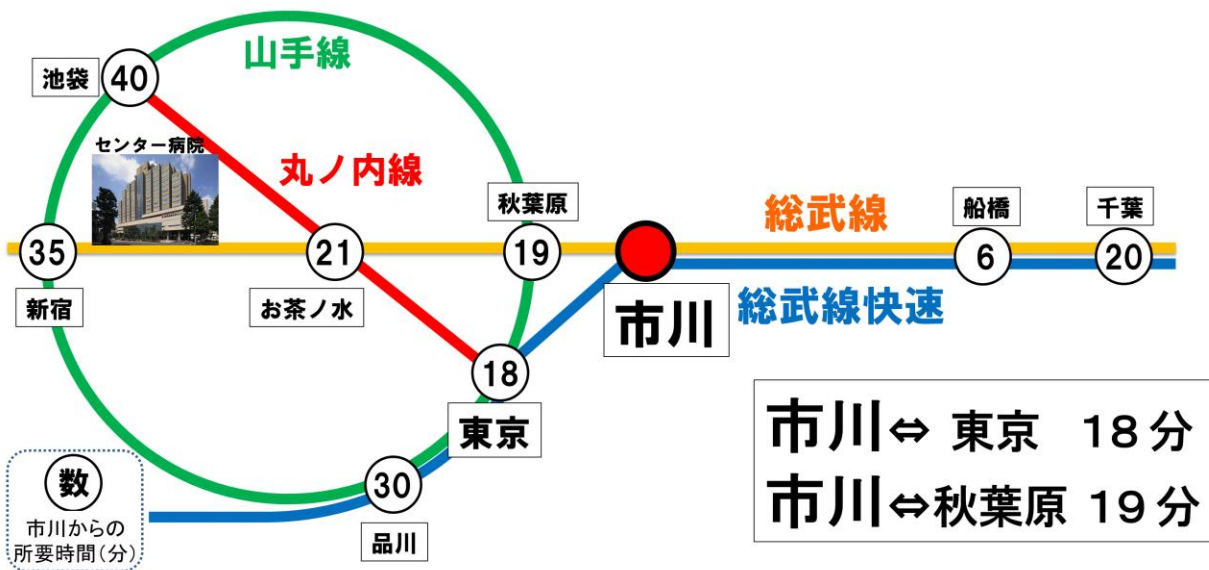


国立国際医療研究センター国府台病院

リウマチ膠原病科のご紹介

市川は千葉県の入口

- ・ 都心と千葉市の間地点。総武線小岩の次。
- ・ 東京駅まで18分（東京⇄市川、総武線快速）
- ・ 外環が開通（三郷南～高屋）して車のアクセスも便利



- ・ 市川より京成バス（松戸駅、松土営業所）10分、
- ・ 京成国府台駅から徒歩10分、
- ・ 北総線矢切駅から京成バス（市川駅行）5分
- ・ 外環松戸I.C.より車で5分





矢切の畑に集まるダイサギ

病院周辺 マップ

江戸川を渡ると
景色が変わります



里見公園



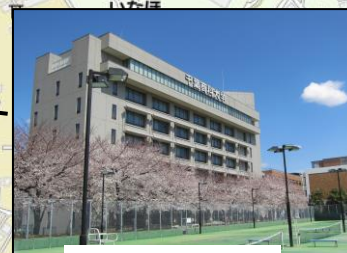
道の駅いちかわ



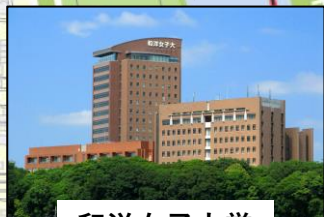
市川市スポーツセンター



千葉商科大学



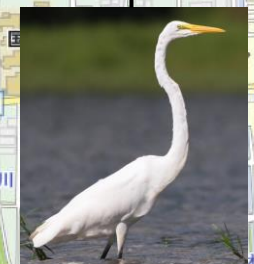
和洋女子大学



東京医科歯科大学教養部



国分川調整緑地の
ダイサギ (上)
アオサギ (下)



病院の歴史とミッション

- 1872年（明治5年）東京教導団兵学寮病室創設
- 1936年（昭和11年）国府台陸軍病院と改称（**陸軍精神病院**）
- 1945年（昭和20年）厚生省に移管、国立国府台病院発足（**総合病院**）
- 1987年（昭和62年）国立精神神経センターと統合（**精神科・神経内科**）
- 2008年（平成20年）国立国際医療センターに組織再編（**総合病院**）
- 2013年（平成25年）新病棟開設
- 2015年（平成27年）新外来治療棟開設



150年の歴史の中で、精神神経疾患診療が病院の伝統的なミッション
2008年以降、総合病院となり精神科診療と融合を目指している





国立看護大学校
(清瀬市)



NCGM
National Center for Global Health and Medicine



国府台病院
(千葉県市川市)

肝炎免疫研究
センター

センター病院
(新宿区)

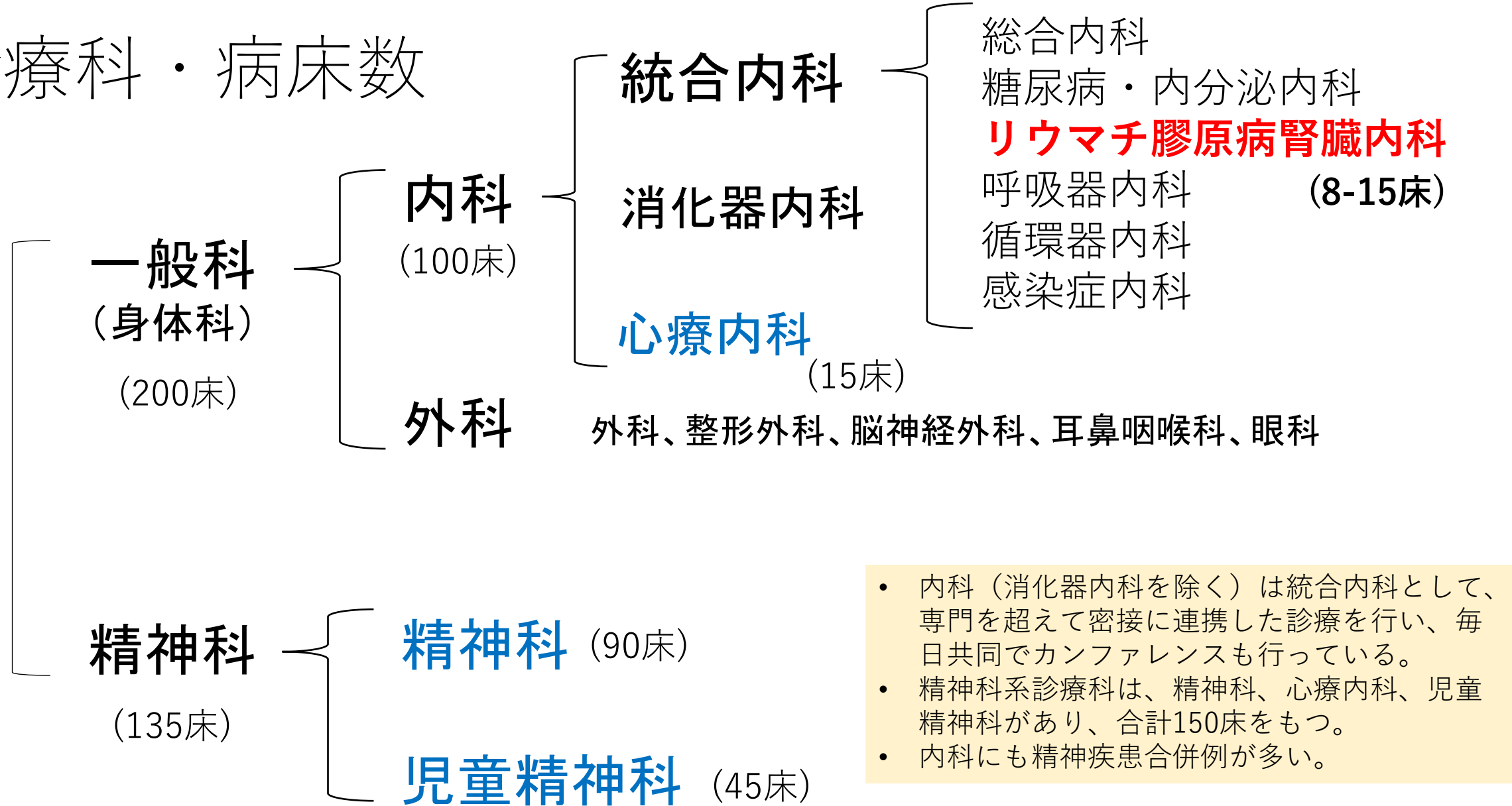


研究所

国立国際医療研究センターは以下の組織で構成されています

- ・ センター病院
- ・ 国府台病院
- ・ 研究所
- ・ 肝炎免疫研究センター
- ・ 国立看護大学校

診療科・病床数



国府台病院 リウマチ膠原病科の特徴

- 診療圏が広く多くの症例があつまる指導医が5名、リウマチ膠原病以外の得意分野を持つ
- 統合内科の中で内科一般とリウマチ膠原病の診療を並行
- リウマチ膠原病科に強い総合内科医を目指しています
- 精神科が強く内科診療でも精神疾患合併例が多い。
- 特定の大学の医局には属していない。
- 国立国際医療研究センター病院との連携でレジデントは相互に研修。
- 研究のサポートも充実

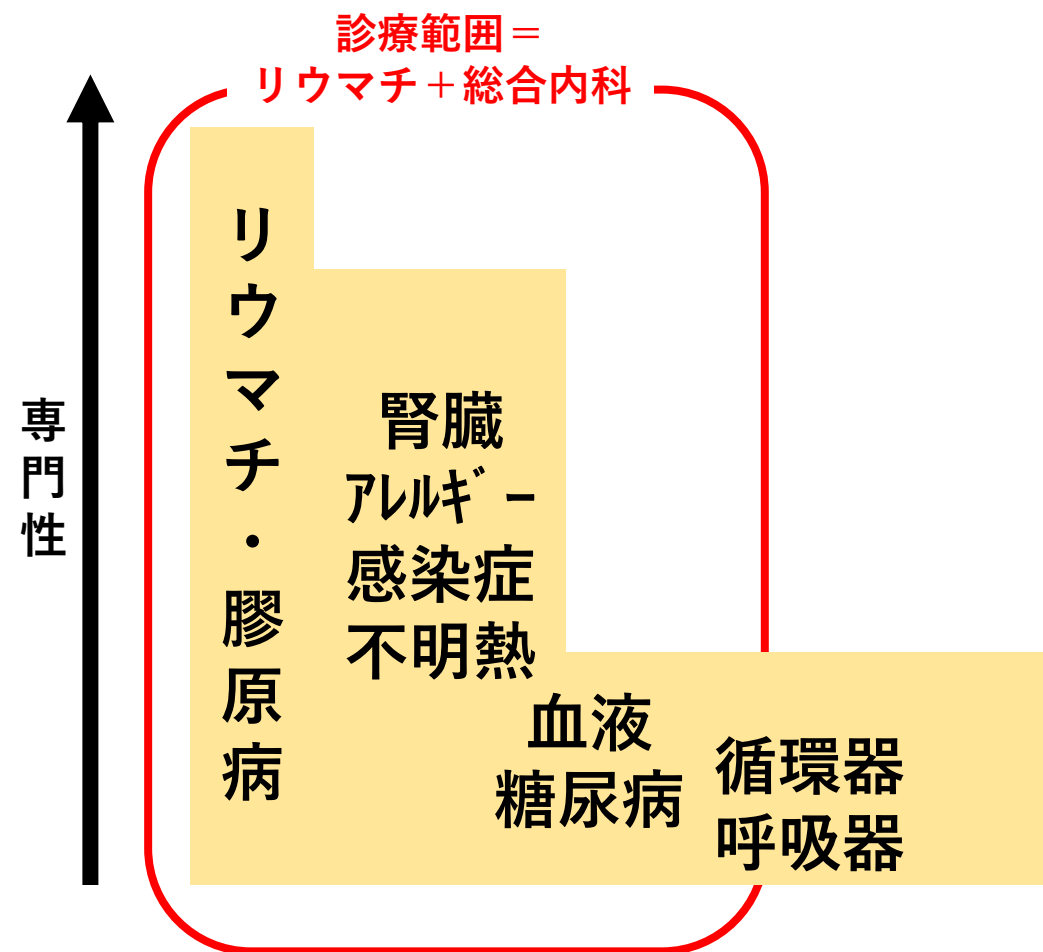
診療圏が広く多くの症例があつまる

- リウマチ膠原病科としての国府台病院の診療圏は、千葉県市川市を中心に松戸市、柏市、流山市、東京都葛飾区、江戸川区に及びます。
- この診療圏内の人口は200万人になり、様々な症例が集まります。
- 外来800名/月、入院150名/年
- 月に20～30名の紹介患者があります。



統合内科の中で内科一般とリウマチ膠原病の診療を並行

- リウマチ膠原病科の専門診療と指導医の得意分野に沿った専門性での内科診療を同時並行で行っています。



指導医が5名、リウマチ膠原病以外の得意分野を持つ

- リウマチ・膠原病科には、リウマチ指導医が常勤3名、非常勤2名おり、それぞれ、リウマチ膠原病以外の得意分野をもっています。
- 感染症専門医／ICT 2名、糖尿病専門医 2名、アレルギー専門医/指導医 1名（非常勤）
- 腎臓は専門医は不在ですが、基本的な腎臓内科の診療も科内で行っています。
- 都立駒込病院・日赤医療センターで、長い間膠原病診療されてきた、猪熊茂子先生が週1回来られて、病棟回診、カンファレンスにも参加されています。

リウマチ膠原病科に強い総合内科医を目指しています

- 内科医は、専門に関わらず、どの分野でも診断できる能力が必要とされます。専門的な技術が必要な場合でも、適切なタイミングで専門家に相談できる必要があります。
- 可能性が高い疾患を優先順位をつけて2-3疾患、確率は低くても見逃したときに重篤な転帰になりうる疾患を挙げ、効率よく鑑別を進めることができることが高い診断能力と考えます。
- 内科では熱性／炎症性疾患を診る頻度は高く、的確な診断と重症度判定、迅速な治療につなげなければなりません。
- 炎症性疾患の診断には、リウマチ膠原病科の知識と経験は非常に有益であり、診断やマネジメントの見通しが良くなります。
- リウマチ膠原病診療では、整形外科、皮膚科、腎臓、神経、呼吸器の知識も必要です
- まずは、自分で考えてどこまで詰められるかが大事です。
- FDG-PETが使用できるのも、炎症性疾患/腫瘍性疾患の診断には威力を発揮します。

Fever

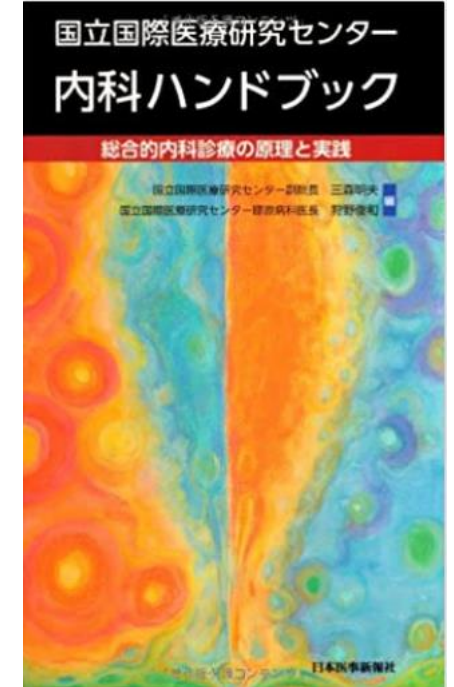
発熱について我々が
語るべき幾つかの事柄



発熱の考え方と臨床を、日頃から連携している感染症・総合診療・膠原病の専門家が共同して執筆。発熱診療のエッセンスを余すことなく網羅的に盛り込みました

国立国際医療研究センター 内科ハンドブック

—総合的内科診療の原理と実践—



リウマチ膠原病科医からみた総合診療の視点で執筆。リウマチ膠原病科医が理解して行うべき総合診療が書かれています。マニュアルとしなかったのは、じっくり読んで理解してほしいというメッセージです。

リウマチ膠原病科内で行う（身につく）手技

手技	内容と意義
関節エコー	診察室のエコーで外来患者を自分で検査。関節エコーに習熟した臨床検査技師と一緒に検査も行うこともできる。
関節穿刺・注射	診断でも治療でもリウマチ科では必須の技術です。
腎生検	膠原病の腎病変、原発性腎疾患の診断のため、積極的に行っています。
筋生検	炎症性筋疾患の診断、筋ジストロフィーや封入体筋炎との鑑別などで必要な時に行っています。
骨髄穿刺・生検	血液疾患の診断、血液疾患と膠原病の鑑別、粟粒結核の診断などで積極的に行っています。
ブロック注射	星状神経節ブロック（循環不全の治療、除痛）、腰部硬膜外ブロック、仙骨部硬膜外ブロック、肩甲上神経ブロックなど、すぐに症状を取る技術も大事と考えています。
皮膚生検・ランダム皮膚生検	血管炎の診断、血管内リンパ腫の診断・除外などで必要になり、時に緊急で行いたいときでも、疑ったその日のうちに行うことが多いです。

精神科が強く内科診療でも精神疾患合併例が多い

- 病院のミッションとして、精神科診療を掲げており、診療科としても精神科／児童精神科／心療内科が揃っています。
- そのため、リウマチ膠原病科をはじめ内科でも精神疾患合併患者が多くいます。
- 専門家のサポートの元で、精神状態のアセスメントや精神疾患の診療も学ぶことができます。

特定の大学の医局には属していない

- スタッフの出身大学は様々で、病院や診療科としては特定の大学に属していません。
- 後期研修終了後は、残ることも、自分の行きたい大学に行くことも自由です。希望があればサポートいたします。

国立国際医療研究センター病院との連携 でレジデントは相互に研修

- 国立国際医療研究センター膠原病科とは、同じ組織内の膠原病科として連携しています。
- 後期研修も相互に研修を行っています。
- 病院の規模も診療範囲も集まる症例も違う膠原病科であり、研修内容も異なります。

研究のサポートも充実

- 国立高度医療センターでは、臨床研究のサポートを受けられます。
- 臨床研究支援室、倫理委員会など研究をサポートする部署や委員会がそろっており、初期研修／後期研修から研究の手順や方法を学べます。
- ナショナルセンター電子カルテ合同データベースのビッグデータを用いた臨床研究、機械学習を用いた研究も行っています、もちろんレジデントでも参加可能です。
- 肝炎免疫研究センターも併設されており、希望があれば基礎研究に携わることもできます。

見学希望、問い合わせは
以下までお願いします

リウマチ科診療科長

医療教育・臨床研究支援部門長／地域医療連携室長

狩野俊和（かのうとしかず）

dkanotoshi111@hospk.ncgm.go.jp

<http://ncgmkohnodai.go.jp> (病院公式ページ)

<http://ncgmkohnodai.org> (リウマチ膠原病科のページ)

